

日本マス・コミュニケーション学会 36 期研究会（若手ワーキング・グループ企画）

『家、ついて行ってイイですか？』にみる 2010 年代のテレビ

日時：2019 年 5 月 11 日（土）14:00-16:30（開場は 13:30）

場所：日本新聞協会 8 階会議室

東京都千代田区内幸町 2-2-1 日本プレスセンタービル 8 階

<http://www.presscenter.co.jp/access.html>

定員：70 名（当日先着順・申し込み不要・参加無料）

\* どなたでもご参加いただけます。満員になった場合、ご入場できないことがありますのでご了承ください。

上映：テレビ東京『家、ついて行ってイイですか？』

ゲスト：高橋弘樹（テレビ東京）

討論者：松山秀明（関西大学）

司会：片野利彦（日本民間放送連盟）

企画の意図：

終電を逃した人に、タクシー代を支払う代わりに自宅に連れて行ってもらう、テレビ東京『家、ついて行ってイイですか？』。この番組は、市井の人びとの「飾らない日常」を捉え、ときに壮絶な人生エピソードを映し出す異色のバラエティ・ドキュメンタリーである。2014 年の番組開始以来、根強い人気を誇り、2015 年の日本民間放送連盟賞（テレビエンターテインメント番組）で最優秀に輝いている。

この番組をテレビ・ドキュメンタリー史の文脈から見ると、短期的な密着のスタイルが特徴であると言える。『NHK スペシャル』や『ETV 特集』、日本テレビ系列『NNN ドキュメント』など、現在放送されているテレビ・ドキュメンタリーは、テーマが何であれ、ほとんどが対象に長期密着し、その過程を描きだしている。しかし、『家、ついて行ってイイですか？』はそうした手法をあえて反転させ、「超短期密着」なドキュメンタリーを意図的に演出する（『GALAC』2017 年 12 月号）。

このような短期密着型の番組は、ほかにも NHK『ドキュメント 72 時間』など、2010 年代以降、増えつつある。本研究会では、ゲストに番組のプロデューサーである高橋弘樹氏（テレビ東京）を招き、この番組の構造について討論する。若手作者の高橋氏（37 歳）とともに、2010 年代に隆盛しはじめた番組の新しい形、そして、テレビのこれからについて議論したい。